

JIA NAGANO- KEN CLUB

Vol.85
2010
03.31

JIA長野県クラブ

(社)日本建築家協会 関東甲信越支部 長野地域会

[http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/
jia-naga@jeans.ocn.ne.jp](http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/jia-naga@jeans.ocn.ne.jp)

『地域と建築家』・建築祭に想う

藤松事業委員長の元、松本美術館を主会場として二年目の建築祭が行われた。来場者数の課題は残ったが、新装なった美しい中庭を持つ美術館でのイベントが共同開催として出来る事について、松本の皆さんの中づくりや景観活動等の長い地域との関わりを理解しなくてはならない。

折しも3月15日の某新聞紙面に『おしゃれな住宅注意』と題して“見た目重視で性能軽視?”“建築後はよく点検して”等のキャッチな言葉が並ぶ記事が掲載された。恐らく東京の本社記事を転写し地元設計者のコメントを載せて地域問題らしくする記事自体も“地域”とのつながりが意味不明。しかし、『建築家』という固有名詞が持つイメージや綺麗な写真等の表層的な情報のみで直接施主と設計者が地域を越えて契約行為を行う事に対するお互いのリスクも同時に浮き彫りにしたのかも知れない。人気商売的な部分も否定できない私たちは正確な情報発信と共に、周りからの見られ方がイコールであることが理想と思っている。つまり、建築家の社会性を重層的な情報として出し続けていく事と共に、地域では専門性を持った市民として社会奉仕に汗を流し続ける事。松本美術館での二年目の建築祭に参加してふと思った。

学生コンクールでは、この様な地域活動を通じた視点での提案性と、過去や現代の表現を越えた所での長野県で建築を学んだ結果をいつも期待している。が、若々しく情熱あふれる学生の作品と説明にはいつも刺激を受けさせて頂いている。特に本年、賞には漏れたが町屋の工夫を高層に積み上げた作品提案にかけた長大なエネル



文化講演会



卒業設計コンクール



会員作品展

新井 優

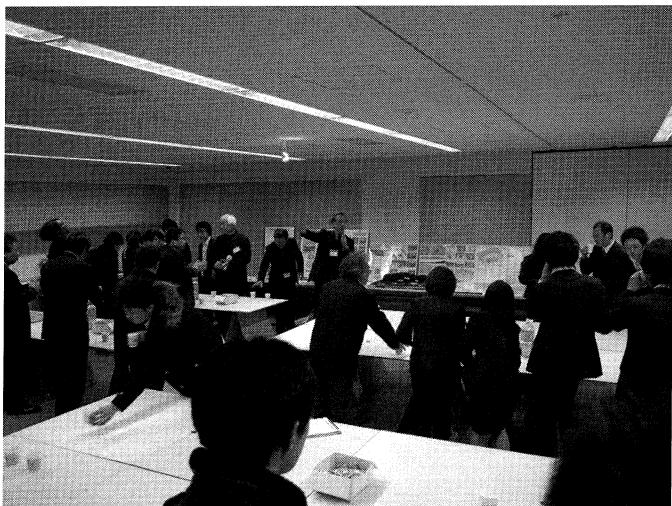
ギーには敬意をお伝えしたい。悶々と悩みプロジェクトを仕上げていく過程こそが将来の個人を育てていくものと確信します。

さて、この冬に二人の施主の奥様が先立たれた。新築した家に6年～9年間家族と共に貴重な生活を送ることが出来たが、家づくりが奥様の希望になった事を後で知った。設計打合せでも明るく朗らかに家づくりの希望や夢を語られ、ご主人とも冗談を言い合っている姿を思い出すと、果たして自分はもし同じ状況になつたらこの奥様の様に振る舞えるのだろうかと思う。また、『住む器』とも言われる家だが、本質はもっと深い所にある事を今後も探し続けなくてはならない事を再確認。地域の景観やまちづくりの最小単位にある住宅ではあるが、家族や地域を見ないと良いものは生まれないといつも言われている事を大切にしたい。

現在の私自身の仕事では、家族の住宅と、多くの一般市民を対象とした公共事業の家づくり(21世紀環境共生型モデル住宅)が同時進行している。特に公共事業の家では実際に住む家族の顔が見えず苦労しているが、今までの設計活動はもちろん様々な地域での活動やJIAで学んだ事をベースに、自分の考えを社会に問う事になるんだろうと思っている。非常に厳しい批評に晒されると思うが、このプロジェクトにかけた想いは伝えたいと思っている。

JIA長野県クラブの一人ひとりが考える『地域と建築家』の視点が、UIA大会への個人の参加意識の高まりにつなげていけるのではないかだろうか。

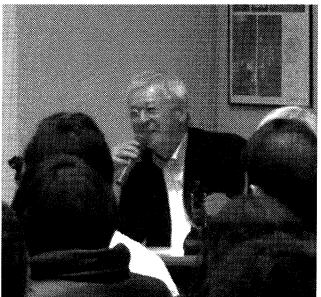
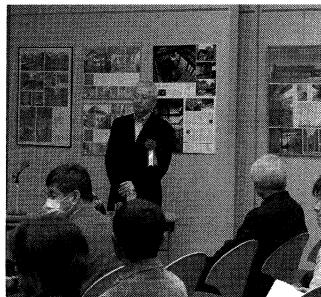
市民に開かれた「建築祭」は4回目を迎え、昨年より松本市美術館との共同企画となり“見つめよう！暮らしの場「ひと・まち・建築」”を共通テーマにJIA長野県クラブによる「建築祭」/ 松本市美術館の「暮らしの空間セミナー」が開催されました。今年度の建築祭は、渡辺明氏講師による「文化講演会」、県内の大学・専門学校・高校生の「長野県学生設計コンクール」、長野県クラブ会員の「会員作品展」など2月27日(土)～28日(日)の二日間にわたり行われました。JIA長野県クラブの活動をより多くの一般市民の方々に知ってもらうとともに信州の建築家との触れ合う場として、大勢の方に参加していただきました。



文化講演会に参加して

毎年この文化講演会を楽しみにしています。JIAに入会する以前から、第一線で活躍されている建築家を目の前にして直接話を聞く事は、地方に住み設計をしている私にとって、刺激を受ける事が出来る貴重な機会になっています。

今回の渡辺明氏の講演も私にとって得るものが多い講演会となりました。冒頭、竹中工務店時代、上司であった建築家 柳澤孝彦氏から「設計で大切なのは、コンセプトではなく、人を中心と考えたストーリーを考える事」と教えられ、今日の渡辺明があるとおっしゃっていました。ひとつの教えがその後の設計人生に与える影響の大きさと、それを守り貫き通してきた意志の強さを感じる事が出来まし



丸山 和男

た。ストーリーを読み解きながら、もう一度渡辺明氏の作品を見てみたい。雑誌だけでなく、その場に身を置き感じなければいけない。作品については、建築本体よりも周辺環境との関係や光・風・水を重視し、そこにいる人がいかに快適に過ごす事が出来るのか考えている事が理解できました。

素材の扱いや技術に関しても、家具や照明などの専門家の方とコラボレーションしながら、今も新しい表現や工法に挑戦していて、そのエネルギーには頭が下がりました。また現在の経済状況下の中、コスト管理を意識しながら、設計業界のグローバル化に向けて、自ら海外に拠点を設け道を切り開いて行こうとしておられる事や、住

宅が雑誌等でなかなか発表出来なくなってきた現在の状況の中で、モデル住宅(実験住宅)を建設するなど、その実行力と姿勢は見習わなくてはいけないと思いました。

今回も本や雑誌からだけでは得られない、多くの大切なことを得ることが出来た文化講演会でした。

長野県学生卒業設計コンクールに参加して

武田 誠彦

第19回学生卒業設計コンクールが渡辺明先生を審査委員長に迎え行われ、建築祭3回目の参加となった私も事業委員の一員として学生卒業設計コンクールに参加いたしました。学生の卒業にあたっての集大成である卒業設計は、自由で素直な初々しさのある高校生の作品、コンセプト・パネル・模型とも緻密で膨大な作業量を思わせる表現力ある大学生らしい作品、高校生の雰囲気をもつて大学生に近い専門学生の作品と、それぞれに魅力的な個性ある作品であったと思います。もちろんそれぞれに優劣はあるにせよ、作品への思い入れや瑞々しい感性や、エネルギー・情熱といったものをじゅうぶん感じることができ、そう言えば自分もそういう時期があったのだと思い出させてくれました。卒業設計コンクール作品は、コンセプト・テーマ設定といった企画・構成力、作図力、模型製作といったデザイン表現・技術力、および審査員へのプレゼンテーション能力等が求められると思うのですが、そし

てそれはわれわれの実際の業務である営業・建築設計実務にもそのままあてはまるものだと思います。そんな学生卒業設計コンクールに参加して、私も瑞々しく情熱溢れるあのころのように今一度原点に立ち戻りまた明日からの業務に活かして行きたい、と改めて思いました。今回参加されなかった会員の皆さんも来年は是非、この素晴らしい卒業設計コンクールに参加していただけたらと願うものであります。

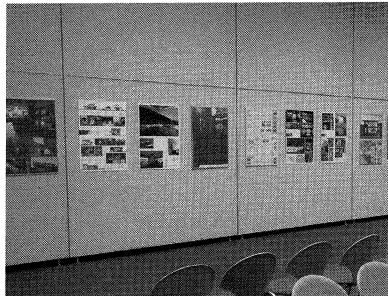


会員作品展に出展して

池森 梢

設計監理した建物をたくさんの方々に見ていただく、知っていただくことは、とても大事なことだと思います。

伝え方は色々な方法があると思いますが、多くの建築士の作品を、同じ展示空間の中で同じ大きさのパネルに表現された建築を見ることは、それぞれの個性が引き立つことになり、見る方たちにより強く個々をアピールすることにつながると思います。



今回、会員作品展に参加するのは3回目となります。参加することは、自分と向きあう良い機会になります。自身の芯の部分を再確認できまし、展示されることで会員同士の意見を語らう場となり、日常の業務の中で一人では気付けない部分を知るきっかけになります。

私は毎回、展示に参加することで、色々な角度から自身の特徴を考えさせられています。どの方向に向かうべきか、修正をするべきか。今

回、私が自身のことで気付いたことは多々ありますが、少々恥ずかしいので控えさせていただきます……。この刺激をうけるためにも、参加し続けたいと思います。

次回はさらに多くの方に見ていただきたいと思っています。

みんなで参加して、みんなで語らい、みんなでより高みを目指して行きたいと思います。

ありがとうございました。

【会員作品展出品者一覧】

赤羽吉人・甘利享一・荒井洋・安藤政英・池森梢・小川原吉宏・尾日向辰文・片倉隆幸・勝山敏雄・上村保弘・川上恵一・菊池弘之・吉川一久・倉田政人・倉橋英太郎・小宮山直樹・清水国寿・下崎明久・武田誠彦・児野登・西沢利一・野口大介・林隆・広瀬毅・福島透・藤松幹雄・丸山和男・松下重雄・宮本忠長・山田健一郎・吉田満（敬称略）

建築祭を終えて

藤松 幹雄

皆様、ご参加ご協力ありがとうございました。事業委員会の皆様もお疲れ様でした。

第4回を迎える建築祭は、昨年より松本市美術館との共同事業となり、みつめよう暮らしの場「人・まち・建築」を共有テーマに3週連続で5つのプログラムが行われました。会員のみならず学生や一般の方々に、いろいろな角度から建築を再発見して頂いたのではないかと思います。

卒業設計コンクールでは学生と審査員が向かいあい、考え方やアドバイスを聞くことができるJIAならではの審査方法だと思います。ただ、入賞出来なかった学生にも、もう少し個々の講評時間を

取ってやりたかったと思いました。また、「建築祭」を一括りにできない運営側の課題も感じました。会員建築作品展では関係者の方々から入場者が少ないなど御意見を頂きましたが、これはあすなろ建築展が基であり、県内の巡回展が今の形になったと思います。考えるに、改めて巡回展を企画し、たくさんの方に見て頂いたほうが良いのではないのでしょうか。さらに、賛助会員の発表の場も併せて設ける事が出来れば良いと思います。

会員作品展では賛助会の方に受付をして頂きましたこと、この場をお借りしてお礼申し上げます。来年度の卒業設計コンクールは20回を迎えます。長野県クラブ全員で力をあわせ盛り立てていきましょう。

学生設計コンクールの審査を終えて

渡辺 明

大学の審査を終えて、厳しい評価になりますが、皆さん的作品に共通しているのは、いまひとつ作品に対して最終的な突っ込みが足りないと感じました。審査員という立場から、われわれが普段考えていることを質問しても、その質問を理解して明確な回答が帰ってこない。これは作品に対しての様々な考えが最終点までたどり着いていないことを意味します。今回は途中経過であるという前提で評価していくことになると、それではあまり意味がないことになってしまいます。昨今の厳しい経済環境の状況下で、われわれがいろいろな人とコラボレーションする場合、説明と説得力とプレゼンテーションが充実していかなければなりません。そうした中で「今途中です」というわけにもいきませんし、常にこれであれば大丈夫だというものを用意し、相手に理解してもらわなければなりません。このことは学生であろうと社会人であろうと同じことですので、是非そのような気持ちで毎日を過ごしていただきたい。

このような学生コンクールでは、是非、学生を担当されている教授も一緒に来ていただいて先生の意見を聞く場があつても良いと思います。審査員が強烈な話をして、学生を育ててくれた先生の考えがあつて、審査員の考え方に対する反論があつてしかるべきであると思います。欧米のように、実務者と教育者が互いに熱い議論を交わすことこそ学生達への教育上大切なではないでしょうか。

高校・専門学校の部ですが、皆さん一人ひとりの作品には暮らしや生活が作品に表れているものが多く感じられました。また、建物は歴史を介して、現代につなげていくことが大切なことのひとつです。歴史を少し入れていくともっと良い作品になると感じました。そういったことを大事にして、大学や社会人になったときに活かして行ってもらいたいと思います。

(学生コンクール当日に渡辺先生が話された審査講評をもとに原稿としてまとめました)



第19回長野県学生卒業設計コンクール 審査結果

◇高校の部		
金賞	岡島 李穂	SUNLIGHT IN IIDA ~地域に親しまれ、地域を育てる図書館~
銀賞	傳田 直己	介護士を育てる 老人ホーム
銅賞	梶村 愛美	Musee de l'arc ~美しさにふれる安らぎの空間~
奨励賞	関 達也	森の保育園 ~新伸科第1保育園~
奨励賞	横山 允宣	あおぞら保育園
◇専門学校の部		
金賞	穂谷 博紀	ぼくらのものがたり
銀賞	田村 洋介	葉っぱ。
銅賞	成澤 奈美	つながる笑顔 ~ミチが結ぶ団地のキズナ~
銅賞	太田 千恵美	おいしく食べること ~心と体が元気になる体験型レストラン~
審査委員長特別賞	内藤 達也	月の丘 ~ぼくらのいばしょ~
◇大学の部		
金賞	林 和秀	東京残余
銀賞	辻 拓也	Segmental Structure
銅賞	西浦 皓記	やねのはなし
奨励賞	久保 一樹	みえかくれするかたち

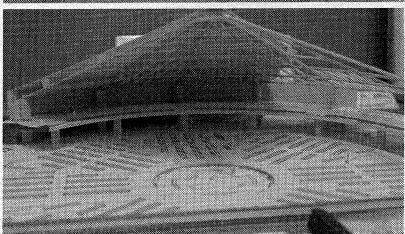
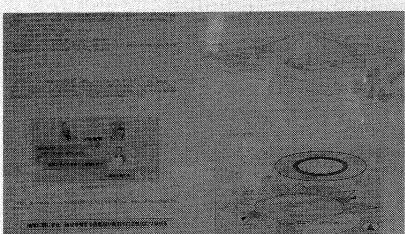
【審査員(敬称略)】

渡辺 明(審査委員長)、上浪 寛(関東甲信越支部)、神澤 宣次(群馬地域会)、平原 茂(新潟地域会)、奥村一利(山梨地域会)、赤羽 吉人(長野県クラブ)、児野 登(長野県クラブ)

【出品者一覧】

岡島李穂、梶村愛美(飯田長姫高校)、那須野誠、高山紀美(池田工業高校)、田村賢太、安藤由貴、関達也、傳田直己、室山裕亮、池田裕希、窪田幸彦(上田千曲高校)、伊藤史華、金井美保、金子佳裕、横山允宣(長野工業高校)、春原太記、高山和希、成澤奈美、田村洋介、穂谷博紀、大澤透、牧内毅、太田千恵美、高橋直也、内藤達也(上田情報ビジネス専門学校)、牛山和彦、丸山匡弘(国際コンピュータービジネス専門学校)、内堀佑紀、久保一樹、西浦皓記、林和秀、辻拓也(信州大学)

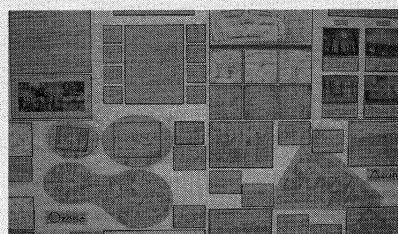
受賞者のひとこと



飯田長姫高等学校
岡島 李穂

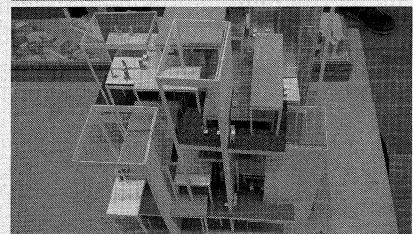
この作品を完成するまでに半年がかかりました。今まで、こんなに

長い期間に一つの作品に取り組むのは初めてでした。自分の考えがまとまらなくて、進まないことが何度もあり、投げ出したくなった時もありました。しかし、先生方にアドバイスをいただいたり、休日にも学校に行って製作したりして、やっと完成させることができました。周りの人たちの協力がなかったら、最後まで諦めずに取り組むことができなかっただかもしません。コンクールのプレゼンでは、説明したいことを上手くまとめることができなくて残念でした。審査委員の先生方からは、改善すべき点などを指摘していただき、今後に役立つものになりました。また、同世代の人たちの作品を見ることができ、良い刺激を受けました。今回の経験を生かして、これからも頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。



上田情報ビジネス専門学校
穂谷 博紀

私が卒業研究にあたり初めにテーマにあげた事は「豊かさについて」でした。人はたくさんの感動に会う事でこころが豊かになります。そこで子どもの頃からそんな沢山の思い出を作れる思いっきり遊べる場所を作ろうと思いました。今回子どもの為のコミュニティを計画するにあたり、実際に子どもたちの遊ぶ様子を見に行ってみたり、学外研修中に幼稚園を見学させて頂く機会もありました。子どもたちは自ら考えて遊びの中から沢山のことを学んでいきます。私もまた20年間に見てきた物や色々な経験、思い出は貴重なものだと思っています。この作品にはそんな私が出会った沢山の感動や思ったことも詰め込んであります。このコンクールで多くの方々にこの作品を見てもらえて本当に嬉しかったです。そして少しでも楽しんで貰えていたらいいなと思っています。今回評価して貰ったことを自信にしてこれから社会に出ても頑張りたいと思います。ありがとうございました。



信州大学 林 和秀

多くの方と自分の作品・考えについて、意見交流できる良い機会を与えていただいたと思っています。卒業制作を行うにあたり、自分は都市から建築の設計やデザインを考えることから始まりました。特に、今回の計画地である東京は、更新が激しく、さまざまな機能や環境を包含していくなかで、その過密さが他の都市には見られないような東京らしさを生み出しています。日常的なものばかりが集まって、全く別の空間が出来上がっていることにとても興味が沸き、自分が設計した建築が、その環境を最大限活かせるような建築の提案をしたいと思い、東京新橋にある「隙間」をテーマに設計を行いました。当たり前のように存在している空間に着目し、見落とされている東京の空間を発見することで、魅力の再考を行いました。

卒業制作を通じて、大会や学内で、建築に携わる人に限らず一般の方にもご指摘いただく中で、自らの未熟さを痛感しました。この半年間の経験を糧に、今後も日々の研鑽を重ねていきたいと思います。



保存問題 山梨大会

川上 恵一

恒例になったJIA関東甲信越支部保存問題委員会主催の大会が19回目を向かえ、今年はお隣の山梨県のぶどうの産地勝沼で2月20日(土)21日(日)に開催されました。1都9県から約120名の参加者が集まり、長野県クラブからはお手伝いの意味もあり8名が参加しました。この2日間は天候に恵まれ大勢で楽しく歩き回り、今回は『近代建築遺産を受け継ぐために』というテーマで明治以降の養蚕からワインへの殖産とそれに伴った建築土木遺産の数々を実際に見学し、それらを保存活用するための方策を探るというものです。まず塩山駅前に集まり、重文で跳ね上げ屋根の茅葺民家(甘草屋敷)から上条集落や街並、また養蚕やぶどう栽培など地域の人々を精神的に支えたと思われる道祖神、寺や寺院などを、また直接のインフラ整備としての鉄道やトンネル銀行やワイン醸造場などを足早に観てまわりました。社寺はともかく、いずれも納

得のいく独特な建築形態が新鮮です。夜はぶどう畠の丘の天辺の宿でワインを片手にほろ酔い気分で語り合いました。私も塩尻の家で少しづドウ栽培をしていますが(ほとんど放りっぱなし)勝沼のブドウ畠の規模や手の入れ方、また密度やシステムの完璧さに圧倒され通します。130年の歴史に裏打ちされた勝沼には逆立ちしても叶わないことを知らされる大会でした。



賛助会だより

建築祭を終えて

(株)角藤 長澤 和芳

昨年度から松本美術館との共同開催になった第4回の“建築祭”に、賛助会員として参加させて頂きました。今年も貴重な又、有意義な体験をさせて頂きました。小生は、会員作品展の受付と説明という大役を仰せつかり、事前に作品の展示を見学し、勉強させて頂きました。自分自身にも刺激となりました。会場に足を運んで頂いていた塩尻の“中年ご夫婦”が、一生懸命作品の前でメモを取っておられ……ついつい“御案内の手を差し延べ”口を挟み説明し、本にも載っているのでという事で、一冊購入して頂きました。話を伺ったところ、10数年前にプレハブメー

カで、新築したとの事……「こんな機会が有った事を知りていれば相談するんだった」と残念がって居られ、“木のぬくもり”をふんだんに使った、地元会員の皆さん的作品を熱心に見て行かれました。美術館との共同開催という事で、他の展示会も開催され、相乗効果もあって、多数の方々の来場にも恵まれ、今後も恒例の行事として定着出来ればと、強く感じました。今後共会員の皆さんと共に、活動に積極的に参加させて頂きたいと思っております。

建築祭に参加して

(株)タクト 青柳 岳史

2月27, 28日の建築祭に参加された皆様方、大変ご苦労様でした。

私は初めての参加でしたが、内容は充実していてとても素晴らしいものでした。会場も美術館という事で、同時に様々なアート作品に触れられるという点ではとても良い空間だと思います。学生の作品展も非常に個性的なものが多く、最近は納まりから考えてしまう事がが多いので大変刺激を受けました。ただ、一般のお客様の来場状況

を見ますと少し寂しいものがありました。建築関係者向けのイベントという位置づけであれば良いと思うのですが、一般の方々にも参加していただき今以上にJIAの認知度を高める為には何か専用の催しが必要なかもしません。課題は絶えないと思いますが、回を追うごとにさらに充実したイベントになって行けばと楽しみに思っています。

■賛助会新入会員の紹介

日本エンバイロケミカルズ(株) 柏原 亨

この度、JIA長野クラブ賛助会に入会させて頂きました。弊社は”よりよい生活環境の創造をめざして”をテーマに活性炭事業と保存剤事業を手がけ、2003年に武田薬品工業から分社発足し、現在は大阪ガスグループの一員です。弊社の主力製品は、優れた防腐・防カビ・防虫効果と高耐候性を持った木材保護塗料「キシラデコール」です。発売からまもなく40年を迎え、多くの方にご愛顧いただきました。JASS18 M-307にも認定さ

れ、木材保護塗料としての性能の高さは当然ながら、第三者機関による安全性試験による結果がこれほど充実しているのは「キシラデコール」だけと自負しています。「キシラデコール」の性能はそのままに低臭性ニーズにお答した「フォレスステージ」、40年以上の実績をもつ防腐・防蟻剤「キシラモン」など、お客様のニーズに答えながら、「木」を守ることで環境貢献していきたいと考えております。

■今後の行事予定

4月12日(月)……………第4回幹事会 4月24日(土)……………2010年度通常総会

編集後記

長野県クラブ最大のイベント『建築祭』が無事終了いたしました。事業の企画から運営に携わっていただいた多くの方々、本当にありがとうございました。松本市美術館との共同開催も2年目を向かえ、単独事業ではない様々な利点を活かし、地域に開かれた事業として、もっと発展させていって欲しいと思います。……………勝山 敏雄

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。